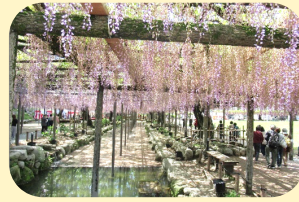


2026年
4月27日

尾張の古道歴史散歩

31期y.okuno

津島街道～天王川公園藤まつり～津島神社



津島街道：かつての繁栄を伝える「まちなみ」

津島街道に足を踏み入れると、まず目を引くのは、緩やかに曲がる道沿いに残る古い町家や蔵の佇まいです。ここはかつて、津島神社の門前町として、そして佐屋街道と結ばれる交通の要所として、人・物・情報が絶え間なく行き交う場所でした。

江戸時代、伊勢参りとともに「津島参り」が盛んだった頃の賑わいを想像しながら歩くと、尾張の経済を支えた「動脈」であったことが、その重厚な景観から偲ばれます。



天王川公園：水辺に揺れる紫のカーテン

街道の歴史を辿った後は訪れた天王川公園では、藤浪の里といわれたように見事な藤の花が迎えてくれました。

かつてこの場所には、津島と名古屋を結ぶ主要な水路であった「天王川」が流れていました。時代の流れとともに川は「丸池」として形を変えましたが、そのほとりに広がる藤棚は、壮観で一見の価値があります。

- ・ 藤の花の情景: 頭上に広がる紫のグラデーションと、風に揺れる花房が水面に映り込む様子は、江戸時代の絵師が描いた名所図会を、現代に呼び起こしたかのようでした。



津島神社：威厳と信仰の地

津島神社は八坂神社と共に、牛頭天王を祀る二大聖地として並び称されてきました。全国に約3,000社ある津島神社の総本社としての風格は、楼門をくぐった瞬間に歴史の重みを感じられます。

- ・ 戦国時代からの足跡: 織田信長や豊臣秀吉、秀頼、そして徳川家からも厚い崇敬を受けたこの地は、まさに歴史の転換点を見守ってきました。
- ・ 時代の変遷: 疫病除けの神としての信仰は、形を変えながらも現代まで脈々と受け継がれています。

しかし、俯瞰しますと中世から続く祈りの積み重ねの歴史が、明治時代の神仏分離政策・廃仏毀釈によって大きく変わりました。

